

第3号様式

(第1面)

事業活動地球温暖化対策結果報告書

(あて先) 川崎市長

郵便番号 108-8005
 住 所 東京都港区港南1-8-15 東燃化学合同会社
 氏 名 社長 小野田 泰 印
 (代理人) 川崎工場長 宮田知秀
 (法人にあっては、名称及び代表者の氏名)

川崎市地球温暖化対策の推進に関する条例第10条第1項の規定により、次のとおり提出します。

事業者の氏名 又は名称	東燃化学合同会社		
主たる事務所 又は事業所の所在地	神奈川県川崎市川崎区浮島町7番1号		
該当する事業者 の要	<input checked="" type="checkbox"/> 規則第4条第1号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第2号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第3号該当事業者		
	<input checked="" type="checkbox"/> 規則第4条第4号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 上記以外の事業者 (任意提出事業者)		
主たる事業 の業種	大分類	E	製造業
	中分類	16	化学工業
主たる事業 の内容	石油化学基礎製品製造業		
事業者の規模	<input checked="" type="checkbox"/> 原油換算エネルギー使用量	772,608	k l
	<input type="checkbox"/> 自動車の台数		台
	<input checked="" type="checkbox"/> エネルギー起源の二酸化炭素 以外の温室効果ガスの排出の量	6,790	t-CO ₂
連絡先	担当部署	担当部署名	川崎工場
		所在地	神奈川県川崎市川崎区浮島町7番1号
		電話番号	044-288-8350
		FAX番号	0
		メールアドレス	0
※受付欄		※特記事項	※事業者番号

(第2面)

計画期間及び報告年度	平成22年度 ～ 平成24年度 (報告年度 平成24年度分)
温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況及び温室効果ガスの排出の量	別添 指針様式第2号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項	別添 指針様式第2号のとおり
備 考	当社の地球温暖化対策の取組については、親会社である東燃ゼネラル石油のホームページにて公表しています。 http://www.tonengeneral.co.jp/apps/tonengeneral/index.html

- 備考 1 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。
- 2 □のある欄は、該当する□内にレ印を記載してください。
- 3 報告書には、事業活動地球温暖化対策指針に定める資料を添付してください。
- 4 ※印の欄は記入しないでください。
- 5 氏名（法人にあっては、その代表者）を記載し、押印することに代えて、本人（法人にあっては、その代表者）が署名することができます。

事業活動地球温暖化対策結果報告

1 温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況（第1号、第2号、第4号該当者等）

(1) 温室効果ガスの排出の量の状況（排出係数固定）

ア 計画期間の温室効果ガスの排出の量

	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標排出量
排出量	(実) 1,009,009 t-CO ₂ (調) 1,008,524	(実) 1,000,918 t-CO ₂ (調) 1,000,464	(実) 970,429 t-CO ₂ (調) 970,383	(実) 1,008,968 t-CO ₂ (調) 1,008,968	(実) 1,039,295 t-CO ₂ (調) 0
削減率		(実) 0.8 % (調) 0.8 %	(実) 3.8 % (調) 3.8 %	(実) 0.0 % (調) 0.0 %	(実) -3.0 % (調)

イ 計画期間の温室効果ガスの排出の量に係る原単位等の値

原単位の 活動量	生産数量		単位	t-CO ₂ /t	
	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標年度の値
排出量 原単位等の値	1.473	1.686	1.581	1.496	1.435
削減率		-14.5 %	-7.3 %	-1.6 %	2.5 %

ウ 計画期間の温室効果ガスの排出の量の状況についての説明

第1年度	<p>排出原単位で14.5%の増加、総排出量で0.8%の削減を達成 ○定期補修工事時における設備改善により消費エネルギーの削減が達成できたが、約2ヶ月間の生産停止により、生産量当たりの排出原単位は増加した ○定期補修工事により約2ヶ月間生産設備が停止したため、生産量の削減と共に使用エネルギー量も減少し、総排出量の削減となった</p>
第2年度	<p>排出原単位で7.3%の増加、総排出量で3.8%の削減を達成 ○設備改善により消費エネルギーの削減が達成できたものの、基準年度との比較で生産量の減少が大きく、生産量当たりの排出原単位は増加した ○生産量の減少と共に使用エネルギーが減少し、総排出量の削減となった</p>
第3年度	<p>排出原単位で1.6%の増加、総排出量で0%の削減を達成 ○設備改善および運転改善により消費エネルギーの削減が達成できたものの、エネルギー使用量の集計方法の変更（低位発熱量:LHV⇒高位発熱量:HHV）により、総排出量は基準年度と同等となった。 ○基準年度との比較で生産量が減少したことおよび、エネルギー使用量の集計方法の変更（低位発熱量:LHV⇒高位発熱量:HHV）の影響により、生産量当たりの排出原単位は若干増加した。 このため、総排出量ベースでは計画時に設定した目標を達成できたものの、原単位ベースでは、目標に届かない結果となった。</p>

(2) 温室効果ガスの排出の量の状況（全社目標）

〈全社目標〉
 2012年までに、30,286トンのCO₂（原油換算 11,000kl）削減効果のある省エネ活動を行う目標であった。
 2012年度に理論値で1,000トン（原油換算で370 kl）のCO₂削減効果がある対策を実施した。
 2012年度までの省エネ活動による CO₂削減効果は理論値で33,800トン（原油換算で12287 kl）となり、目標を上回った。

3 温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成するための措置の実施状況

(1) 温室効果ガスの排出の量の削減のための措置の実施状況

事業所等 (第1号、 第2号、 第4号該 当者等)	計 画	工場の運転改善によりエネルギー消費量を削減し、温室効果ガスの排出を削減する。 熱交換器の設置・原料の多様化による製造所の運転改善を実施し、エネルギー消費量を削減し温室効果ガスの排出を削減する。
	第1年度	下記の省エネルギー活動を実施した。CO2削減効果(理論値)は合計24,000トンである。 ○スチームクラッキング装置(エチレン製造装置)における省エネルギー活動 ・ナフサ分解用希釈蒸気の圧力制御弁の更新による、エネルギー削減 ・加熱炉対流部のクリーニングにより炉効率を改善し使用燃料を削減 ・プライマリーフラクシオネーター(分留装置)のトレー交換による熱回収量増加によるエネルギー削減 ・圧縮機出口に新規配管を設置し圧力損失低減による、圧縮機動力の削減 ・コンプレッサーの出口配管改造による、リサイクルガス削減および吐出圧力低下により動力削減 ○メチルエチルケトン製造装置における省エネルギー活動 ・蒸気エジェクター(上記排気装置)を設置し低圧蒸気の有効利用による、エネルギー削減
	第2年度	下記の省エネルギー活動を実施した。CO2削減効果(理論値)は合計8,800トン(原油換算で3195kl)である。 ○スチームクラッキング装置(エチレン製造装置)における省エネルギー活動 ・加熱炉対流部のクリーニングにより炉効率を改善し使用燃料を削減 ・ボイラー給水の水質管理装置を更新しブローダウン水量削減によるエネルギー削減
	第3年度	なし 尚、計画書では、「スチームクラッキング装置における廃熱利用予熱器設置による燃料ガスの使用量削減」についても記載していたが、その後の検討で実施を取りやめている。
自動車等 (第3号該 当者等)	計 画	
	第1年度	
	第2年度	
	第3年度	

4 他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況

計 画	なし
第1年度	なし
第2年度	なし
第3年度	なし

5 その他地球温暖化対策の推進への貢献の実施状況

計 画	<ul style="list-style-type: none"> ○川崎コンビナート形成各企業との電力・スチームの一括供給体制構築による省エネ達成 ○産業廃棄物の減量化・分別化の推進 ○川崎市と協働した取組 <ul style="list-style-type: none"> －川崎温暖化対策推進会議（CC川崎エコ会議）への参加 －川崎国際環境技術展に出展 ○環境教育実施 <ul style="list-style-type: none"> －川崎市中学校等へ総合学習の一環として環境教育実施
第1年度	<ul style="list-style-type: none"> ○川崎コンビナート形成各企業との電力・スチームの一括供給体制構築による省エネ達成 ○産業廃棄物の減量化・分別化の推進 ○川崎市と協働した取組 <ul style="list-style-type: none"> －川崎温暖化対策推進会議へ参加 －川崎国際環境技術展2011に出展 ○環境教育実施 <ul style="list-style-type: none"> －川崎市中学校等へ総合学習の一環として環境教育実施(3校) ○ニュースレターの発行により省エネ活動啓蒙等実施（16回発行）
第2年度	<ul style="list-style-type: none"> ○川崎コンビナート形成各企業との電力・スチームの一括供給体制構築による省エネ達成 ○産業廃棄物の減量化・分別化の推進 ○川崎市と協働した取組 <ul style="list-style-type: none"> －川崎温暖化対策推進会議へ参加 －川崎国際環境技術展2012に出展 ○ニュースレターの発行により省エネ活動啓蒙等実施（13回発行）
第3年度	<ul style="list-style-type: none"> ○川崎コンビナート形成各企業との電力・スチームの一括供給体制構築による省エネ達成 ○産業廃棄物の減量化・分別化の推進 ○川崎市と協働した取組 <ul style="list-style-type: none"> －川崎国際環境技術展2013に出展（ベストブース大賞を受賞） ○ニュースレターの発行により省エネ活動啓蒙等実施（3回発行）

6 前年度の温室効果ガスの排出の量等の実績（排出係数反映）

(1) 事業者単位

ア 第1号、第2号、第4号該当者等

(実)	1,018,118	t-CO ₂
(調)	1,018,118	

(2) 事業所等単位（第1号、第2号該当者等）

ア 年間の原油換算エネルギー使用量が1,500k1以上の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
川崎工場	川崎市川崎区浮島町7番1号	1631	石油化学系基礎製品製造業	1,018,118 t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂

イ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で500k1以上1,500k1未満の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂

ウ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で500k1未満の事業所の一覧

エネルギー使用量の規模	事業所数
400～500k1 未満	
300～400k1 未満	
200～300k1 未満	
100～200k1 未満	
100k1 未満	

(3) 事業所等単位（第4号該当者等）

ア 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量（二酸化炭素換算）が3,000t以上（二酸化炭素の場合はエネルギー使用に伴い排出したものを除く。）の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
川崎工場	川崎市川崎区浮島町7番1号	1631	石油化学系基礎製品製造業	1,018,118 t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂

イ 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量（二酸化炭素換算）が3,000t未満（二酸化炭素の場合はエネルギー使用に伴い排出したものを除く。）の事業所の数

事業所数	
------	--